2014年2月1日発行（隔月発行）

図書館報 ぷらっつ★篠崎

034号

特集「○○という仕事」

P3 **そのメロディに魅せられて♪**
「彩り」
（「Mr.children 2005-2010<macro>」収録）

P4 **人物ブックマーク**
「マニー・パッキャオ」

P4 **スタッフのセレクション！**
「旅人―ある物理学者の回想」

熱闘!! BIBLIO BATTLE in SHINOZAKI

去る1月12日（日）に篠崎図書館で「ビブリオバトル」を開催しました。ビブリオバトルとは、立命館大学の谷口忠大准教授が考案した、ゲーム感覚を取り入れた新しいスタイルの「知的書評合戦」です。ビブリオバトラー（発表者）たちが、それぞれおすすめの本を書評した後、一番読みたくなった本、「チャンプ本」を投票で決定するというものです。最近は図書館や本屋でも開催されています。

今回は5名のバトラーが参戦しました。バトラーがそれぞれ「学校」をテーマにした作品の魅力を熱く語りました。バトラー全員の発表終了後、観覧者とバトラーの皆様に一番読みたくなった本を投票して頂きました。その結果、激戦を制しチャンプ本に選ばれたのは、会社員の尾園清香さんが発表した『たった独りの引き揚げ隊』（石村博子著　角川書店　篠崎ほか所蔵）でした。サンボの生ける伝説・ビクトル古賀が10歳の時の満州脱出記。尾園さんの紹介を聞いて、私も読みたくなりました。

ビブリオバトルは、本と時計があれば出来ます。興味がある方は学校や会社でやってみてはいかがですか？　結構、盛り上がりますよ。（風雲ふわふわ丸）

チャンプ本を紹介した尾園さん

江戸川まいにんぐ　発掘　第３４回
「こんなにいるよ！江戸川区のキャラクター大集合」

江戸川区内のイベントやスポットをスタッフが調査して身近な情報をお届けする、地域密着型のコーナーです。

去年も「ゆるキャラグランプリ」が行われましたね。船橋市の“ふなっしー”のまさかの出場辞退（殿堂入りのつもりか!?）によって盛り上がりが懸念されたようですが、心配無用の盛況ぶりだった模様。有力候補の静岡県浜松市の“出世大名家康くん”を破り、栃木県佐野市の“さのまる”がグランプリでした。（佐野ラーメンに、いもフライのキャラなのか……）

さて、われらが江戸川区にも（ゆるくはないかもしれませんが？）「公式キャラクター」や「ゆかりのキャラクター」がいるのは皆様ご存じでしょうか？

えどがわ農業応援団長の“えどちゃん”や、区特産の金魚をPRする江戸っ子金魚“えど金ちゃん”は篠崎文化プラザの企画展示にも来てくれましたので、覚えている方も多いと思いますし、銭湯好きの方は“お湯の富士”はもちろんご存じのはず。

しかし、それはまだまだ序の口。食育活動推進の“ペロン”、楽しい子育てを応援する“楽子（らっこ）ファミリー”、去年、可愛さはそのままに大幅リニューアルされたお祭り応援キャラクター“ハッピィちゃん”など、まだまだたくさんのキャラが存在します！

ゆるキャラグランプリは、「ゆるキャラで地域を元気に！」が目的の一つです。江戸川区のそれぞれのキャラ達に今後の「地元に元気をくれる」活躍を期待したいですね！（ちなみに「ゆるキャラグランプリ　2013」で、江戸川区キャラクターの最高位はお湯の富士の882位みたいです……強敵ぞろいですねぇ）

参考資料　江戸川区ホームページ　「オフィシャルキャラクター」より
https://www.city.edogawa.tokyo.jp/kuseijoho/gaiyo/character/index.html

ライブラシネマ篠崎

「恐喝（ゆすり）」
（1929年、イギリス）

監督：アルフレッド・ヒッチコック
出演：アニー・オンドラ
　　セーラ・オールグッド　ほか

２月２２日（土）
14時　開演　（13時30分　開場）
場所：篠崎文化プラザ　講義室
定員：70名（当日受付、先着順）
どなたでも参加できます。
入場料：無料

誤って人を殺した女性と、その恋人の刑事をめぐるサスペンス。ヒッチコックの最初のトーキー作品であり、かつイギリスにおけるトーキー第1作。従来のサイレント的技巧と新たな音声技術を巧みに組み合わせた演出が秀逸。

人物ブックマーク

人物ブックマークとは、著名人とその著作および関連本を紹介するコーナーです。

第二十六葉　マニー・パッキャオ

いまボクシング界には二人のスーパースターがいる。一人は天才フロイド・メイウェザーJr。もう一人は、今回ご紹介する“パックマン”ことマニー・パッキャオである。

パッキャオはフィリピンの貧しい農家の出身。家計を助けるために路上で物を売ることもあったが、ボクシングと出会ったことで人生が好転し、’95年に16歳でプロデビュー、’98年には早くもフライ級王座を獲得した。これを皮切りに、彼の怒涛の快進撃が始まり、世界タイトルを次々と獲得、’10年には史上二人目となる6階級制覇を成し遂げたのである。

ところで、右の表を見てほしい。これはミニマム級からヘビー級までの体重制限表であるが、一番右端にパッキャオが獲得したタイトルが記載してある。ご覧の通り、パッキャオは、いくつかの階級を飛び越してタイトルを取っているのだが、もし、その飛び越した階級も取っていたら、10階級制覇ということになるのであり、しかも、スーパー・ウェルター級からフライ級の体重を引くと、その体重差約20kgとなるのだ!!　階級を一つ上げるだけでも、体をその階級に合わせるのが難しく、勝つことが容易ではないと言われているのだが……。しかも、強豪と対戦し勝利してきているのである。彼の活躍は奇跡的といえる。

最後に、彼のニックネームについてだが、彼がものすごく強い対戦相手をバッタバッタ倒すという大物食いをするところから、名作ゲームの「パックマン」がニックネームになったとのことである。

階級	体重	パッキャオ獲得階級
ミニマム級	105ポンド(47.62キロ)以下	
ライト・フライ級	105ポンド超え108ポンド(48.97キロ)まで	
フライ級	108ポンド超え112ポンド(50.80キロ)まで	1998年12月　WBC世界フライ級タイトル獲得(防衛1)
スーパー・フライ級	112ポンド超え115ポンド(52.16キロ)まで	
バンタム級	115ポンド超え118ポンド(53.52キロ)まで	
スーパー・バンタム級	118ポンド超え122ポンド(55.34キロ)まで	2001年6月　IBF世界S・バンタム級タイトル獲得(防衛4)
フェザー級	122ポンド超え126ポンド(57.15キロ)まで	
スーパー・フェザー級	126ポンド超え130ポンド(58.97キロ)まで	2008年3月　WBC世界S・フェザー級タイトル獲得(防衛0)
ライト級	130ポンド超え135ポンド(61.23キロ)まで	2008年6月　WBC世界ライト級タイトル獲得(防衛0)
スーパー・ライト級	135ポンド超え140ポンド(63.50キロ)まで	
ウェルター級	140ポンド超え147ポンド(66.68キロ)まで	2009年11月　WBO世界ウェルター級タイトル獲得(防衛3)
スーパー・ウェルター級	147ポンド超え154ポンド(69.85キロ)まで	2010年11月　WBC世界S・ウェルター級タイトル獲得(防衛0)
ミドル級	154ポンド超え160ポンド(72.57キロ)まで	
スーパー・ミドル級	160ポンド超え168ポンド(76.20キロ)まで	
ライト・ヘビー級	168ポンド超え175ポンド(79.38キロ)まで	
クルーザー級	175ポンド超え200ポンド(90.72キロ)まで	
ヘビー級	200ポンド超え無制限	

関連書

「BOXING名勝負大全」　白夜書房　788ホ　篠崎所蔵

雑誌「ボクシング・マガジン　14年1月号」(パッキャオの記事あり)　中央ほか所蔵

スタッフのセレクション

篠崎図書館で働くスタッフが選んだおすすめ本を紹介します。

「旅人―ある物理学者の回想」

湯川秀樹著　角川ソフィア文庫　B289ユ　篠崎ほか所蔵

この本は湯川博士の自伝です。湯川博士というと、東野圭吾氏のガリレオシリーズを思い起こす方も多いかと思いますが、こちらは、日本で最初にノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士のことです。果たしてノーベル賞を受賞したのは、どんな人物なのでしょうか。

この本には、湯川氏が理論物理学の道を歩み、中間子論を世に出すまでの27歳数か月が描かれています。

彼は幼い時から京都で育ちました。生活者としての京都の描写は、大変情緒豊かで新鮮です。そして、湯川氏には、生まれながらにして、学者の道が引かれていました。彼の父親も地質学者であり、祖父は5、6歳のころから漢籍の素読をさせていました。父親は、5人の息子は学者になるのが当たり前のように思っていましたが、秀樹氏はそのとっつきにくい性格のせいか、学者にするのをためらった時期があったようです。親というのは一番子供のことをわかっているようで、実は客観的に見られないという典型でしょうか。そんな湯川氏は、大の読書好きで、内気な性格ゆえか、勉学に対する探究心が人一倍あったようです。三高から京大へと進むのですが、高校時代に第二外国語まで習得し、大学時代は、論文なども読み漁ったとのことでした。

私はどちらかというと理系の学問の方が好きですが、物理は苦手とする科目でした。なので、湯川氏が中学4年の時に、アインシュタイン氏が来日したのに講演を聞きにいかなかったのを残念に思ったり、量子論に興味を持ち、当時解決していなかった問題に挑む姿にただただ脱帽しました。

湯川氏が論理物理学の道に進んだのには運命のいたずらのようなところもありましたが、なるほど、こういう人だから、ノーベル賞をとることができたのだなと納得できた本でした。

編集後記

３月は別れの季節。私は三日坊主とお別れしたいです。（風雲ふわふわ丸）／働いていると月日があっという間に過ぎます。この感じだとすぐ2015年を迎えそうです。（かき氷職人）／仕事を頑張りすぎると体Damageきっとあるので、ソコソコにしてマス。ハイ。（M.弱尊）／「しごとごとごと～見ているうちに～♪」仕事というとこの歌。いつのまにか働く人になってた（驚）！（じゃんじゃん）

編集・発行：江戸川区立篠崎図書館
住所：〒133-0061
江戸川区篠崎町7-20-19
篠崎文化プラザ内
TEL：03-3670-9102
[しのざき文化プラザHP]内篠崎図書館ページ
http://www.shinozaki-bunkaplaza.com/library/